

今別町地域公共交通計画

2023年3月
今別町



目 次

第1章 計画の概要	1
1-1 計画の背景と目的.....	2
1-2 計画の位置づけ.....	3
1-3 計画の対象.....	3
1-4 計画期間.....	4
1-5 計画策定にあたり実施した調査一覧.....	4
第2章 当町の公共交通に関する課題	5
2-1 当町の公共交通に関する課題(概要).....	6
2-2 当町の公共交通に関する課題(詳細).....	7
第3章 基本方針及び基本目標	13
3-1 当町の公共交通が目指す姿(基本方針)及び基本目標.....	14
3-2 計画の基本目標および評価指標等.....	17
第4章 目標の達成に向けた具体施策	21
4-1 施策体系.....	22
4-2 施策・事業の内容.....	24
第5章 計画の推進方策	33
5-1 計画の管理体制.....	34
5-2 計画の管理スケジュール.....	35

第1章 計画の概要

1-1 計画の背景と目的

(1)計画の背景

当町では、住民生活の移動を支える役割として巡回バスを運行し、町内の各地域から主要な施設を繋いでいるほか、2016年に開業した北海道新幹線・奥津軽いまべつ駅と町中心部も繋いでおり、多様な移動に対応しています。

また、町外への移動手段としてJR津軽線が運行し、町外への通勤・通学をはじめ、通院や買い物などの多様な目的での移動に対応しています。

一方、自家用車を利用する世帯の増加や人口減少などの影響もあり、もともと巡回バスや鉄道の利用者数は低迷する状況にありましたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けさらに利用者は低下しています。

また、2022年8月の豪雨災害によりJR津軽線が被災し、蟹田駅～三厩駅間が不通（2023年3月現在）となっており、青森市や外ヶ浜町などへの広域的な移動に対して大きな影響を与えています。

しかしながら、当町においては高齢化が進展しており、移動に制約を持つ高齢者が今後さらに増加することが見込まれるため、移動手段として公共交通に求められる役割は更に大きくなるが見込まれます。

(2)計画の目的

当町を取り巻く情勢等は大きく変化し続けていますが、今後も町民や来訪者などの移動を支え、多様な連携・交流の基盤となる公共交通を確保・維持することを目的として、当町が目指す将来像に対して、公共交通がどうあるべきかなどの方針を示すとともに、その実現に向けた一定期間でのゴール（着地点）の設定、着地点に向けた具体的な取組などを示す「今別町地域公共交通計画」（以下「本計画」という）を策定します。

1-2 計画の位置づけ

本計画は、町政の指針となる「第5次今別町総合計画」を上位計画とし、当該計画が示す町の将来像“みんな活き活き健康長寿奥津軽いまべつタウン”の実現に向けて、他の町の計画と連携した取組を進めます。

また、県が策定する青森県地域公共交通計画では、広域的な公共交通に対する位置づけ・取組などを示していることから、当該計画とも整合を図りながら取組を進めます。

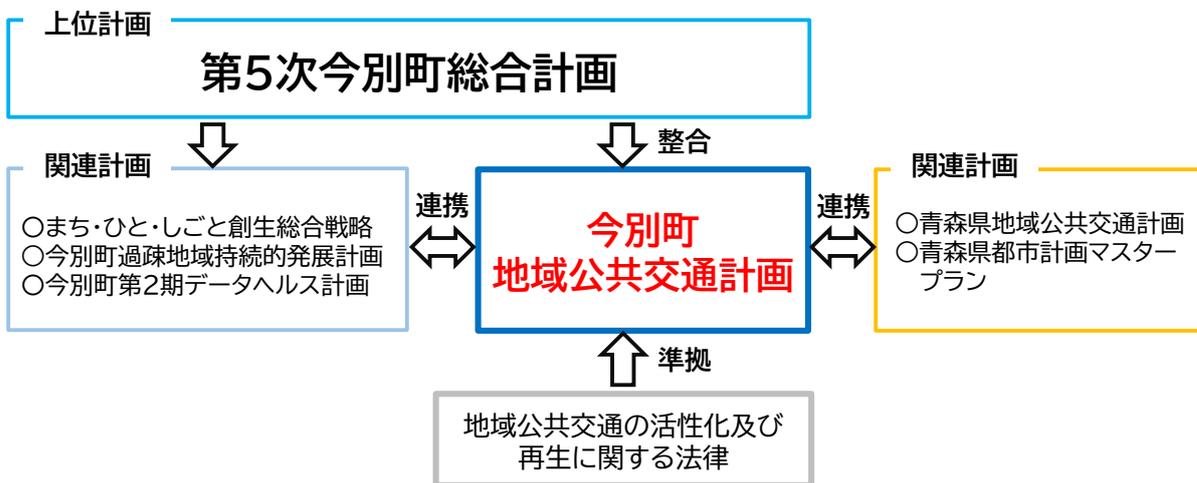


図 計画の位置づけ

1-3 計画の対象

(1) 計画の区域

本計画は、今別町全域を計画対象区域とします。

(2) 計画の対象とする交通手段

本計画は、町内を運行する全ての公共交通を対象とします。

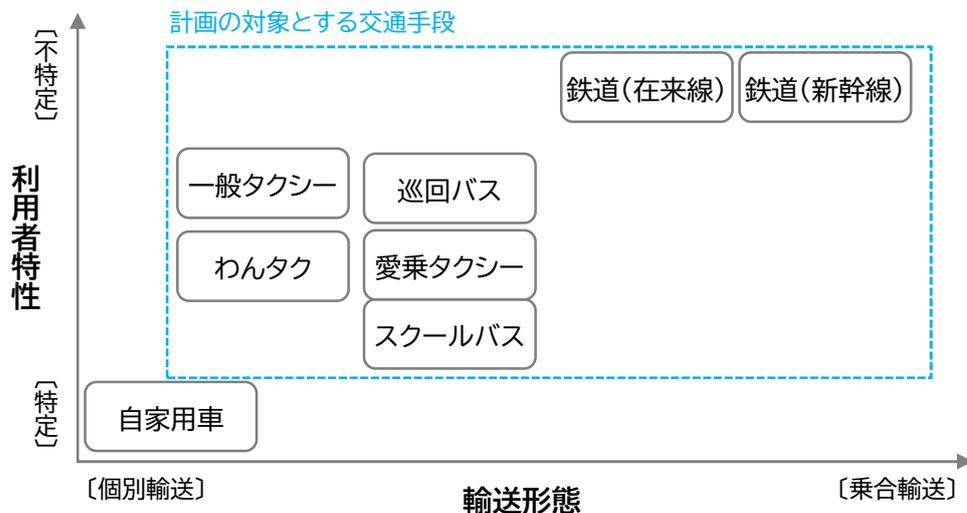


図 計画の対象とする交通手段

1-4 計画期間

本計画の計画期間は、2023年度から2027年度までの5か年とします。

なお、計画の内容については、上位計画である「第5次今別町総合計画」の更新時期や、根拠となる法制度の改正、その他社会情勢の変化なども踏まえながら、計画期間内であっても必要に応じて見直しを図ることとします。



図 計画期間

1-5 計画策定にあたり実施した調査一覧

本計画の策定にあたり、住民生活の実態や公共交通の実態等を把握するため、以下に示す調査を実施しており、これらの分析・検証を踏まえて検討を行っています。

図 計画策定にあたり実施した調査一覧

No	調査名称	調査方法	調査の目的	実施時期
1	町民アンケート調査	郵送配布 郵送回収/WEB 回収	町民の移動実態、公共交通の利用実態を把握	2022年12月～ 2023年1月
2	交通事業者ヒアリング調査	WEB 上で実施	経営状況や現行サービスの問題点などを把握	2023年2月
3	庁内関係課ヒアリング調査	対面で実施	町内を運行する移動サービス（スクールバスなど）の運行の実態などを把握	2023年2月

第2章 当町の公共交通に関する課題

2-1 当町の公共交通に関する課題(概要)

当町を取り巻く実状等を踏まえて、公共交通に関する課題について以下の通り整理します。課題の概要については以下のとおりであり、詳細な内容については次頁以降に示します。

課題1 さらに進展する高齢化を見据えた移動手段の確保が必要

- 高齢化の進展により、日常生活において移動に制約の大きい町民が増加することが見込まれる中で、安心して暮らし続けられる生活環境を確保するためには、運転免許がなくても、買い物や病院などへ移動することができる環境を確保することが必要です。

課題2 町内の移動実態への対応した公共交通ネットワーク及び拠点の設定が必要

- 町内での移動時の利便性向上に向けて、買い物や通院などの町民の移動実態等を踏まえて、公共交通サービスの見直しを図ることが必要です。
- 当町におけるまちづくりの方向性なども踏まえて、街なかにおいて地域公共交通の核となる拠点の設定を検討することが必要です。

課題3 青森市や近隣町村への移動ニーズへの対応が必要

- 町外への移動手段として運行する広域的な公共交通サービス(鉄道、乗合タクシーなど)を適切に確保・維持することにより、町外への移動ニーズに対応し、当町で暮らし続けられる生活環境を確保する(定住促進を図る)ことが必要です。

課題4 観光等との連携した取組の検討が必要

- 新幹線駅の奥津軽いまべつ駅から町の中心部へのアクセス手段などを確保・維持するとともに、情報面などのソフト的な取組なども並行して展開することによって、奥津軽いまべつ駅の更なる活用や観光振興への活用の検討を進めることが必要です。
- さらに、竜飛方面(外ヶ浜町)への観光客の移動ニーズを踏まえて、観光施策としての二次交通の確保などによる、新たな利用者の獲得についても検討を進めることが必要です。

課題5 公共交通を利用しやすい・わかりやすい環境の構築が必要

- バス停ごとの利用実態に応じた待合環境の改善(上屋・ベンチの設置など)や、デジタルコンテンツ(WEB 媒体など)やアナログコンテンツ(紙媒体など)での運行情報の発信強化などを進め、誰もが公共交通を利用しやすく、わかりやすい環境を構築することが必要です。

2-2 当町の公共交通に関する課題(詳細)

課題1

さらに進展する高齢化を見据えた移動手段の確保が必要

当町の人口は減少傾向が長期間にわたり続いており、また、2010年から2020年までの人口減少率が▲27.5ポイントであったのに対し、2020年から2030年までの減少率は▲31.0ポイントであるなど、減少幅がさらに大きくなる見込みです。

そうした中で、高齢者の減少率は比較的少ないことから、総人口に占める高齢者(65歳以上)の割合が増加し続ける見込みであり、2020年現在、高齢化率55.3%(約2人に1人が高齢者)であるのに対し、2030年には高齢化率65.8%(約3人に2人が高齢者)となる見込みです。

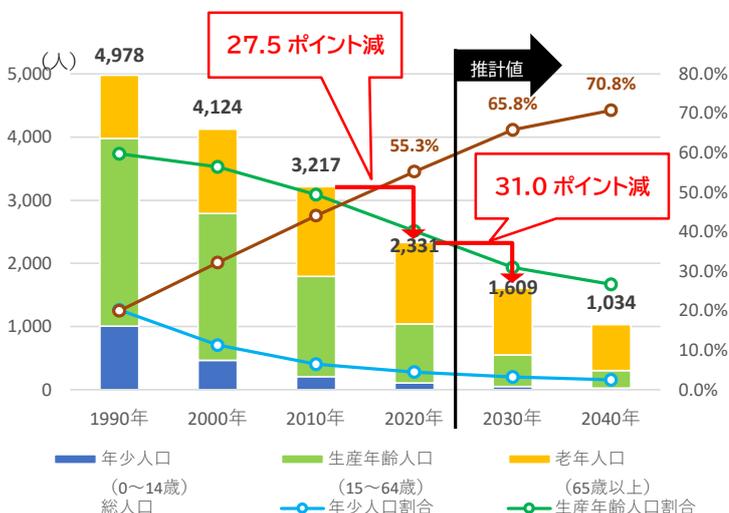


図 今別町の年齢3区分別人口及び構成割合の推移

資料：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所

65歳以上の町民の71.3%が運転免許を所有しているが、今後の運転免許の返納予定に対して1年以内の返納を予定する町民の割合は低く(約0.7%)、ほとんどが返納意向はあるものの具体的な時期が未定であったり、返納の意向がないと回答しています。

なお、運転免許の返納による困りごととしては、買い物や通院などの移動手段が無くなることに対して回答が多くあり、日常生活に影響が及ぶことを懸念する状況がみられます。

今後、高齢化が進展することにより、日常生活において移動に制約の大きい町民が増加することが見込まれる中で、こうした町民が安心して暮らし続けられる生活環境を確保するため、運転免許がなくても、買い物や病院などへ移動することができる環境を確保することが必要です。

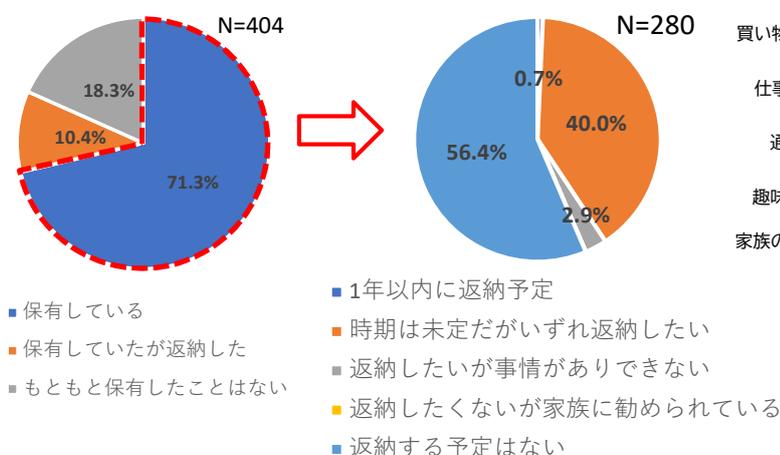


図 運転免許の保有状況と返納予定(65歳以上)

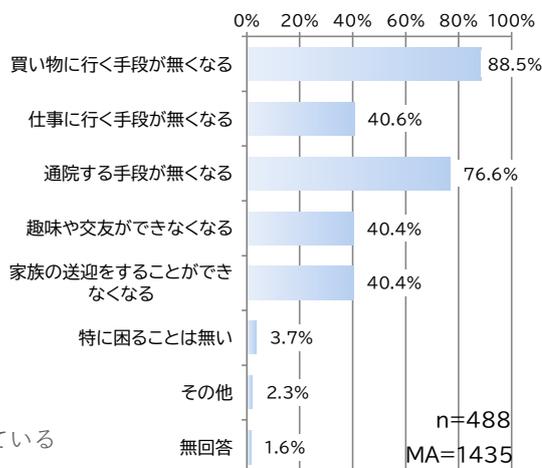


図 免許返納した場合の困りごと

資料：2022 町民アンケート調査

課題3

青森市や外ヶ浜町への移動ニーズへの対応が必要

町内には商業施設や医療施設など、日常生活に必要となる基本的な生活サービス機能が立地しているものの、規模が大きくないことや立地数が少ないことなどから、町民は外ヶ浜町や青森市などにも日常的に移動する実態がみられます。

また、2022年度末に町内の唯一の高校が閉校したこともあり、高校生は町外の高校へ通学する必要があり、特に多くの高校が立地する青森市内へ通学する傾向がみられ、当町で日常生活を送る上では町外との連携が重要となります。

町外への移動手段として、JR 津軽線(青森市・外ヶ浜町方面)や予約型乗合タクシー(中泊町方面)が運行※しており、これらの公共交通サービスを適切に確保・維持することにより、町外への移動ニーズに対応し、当町で暮らし続けられる生活環境を確保する(定住促進を図る)ことが必要です。

※2023年3月時点、JR 津軽線は運休中(令和4年8月の大雨による被災のため)

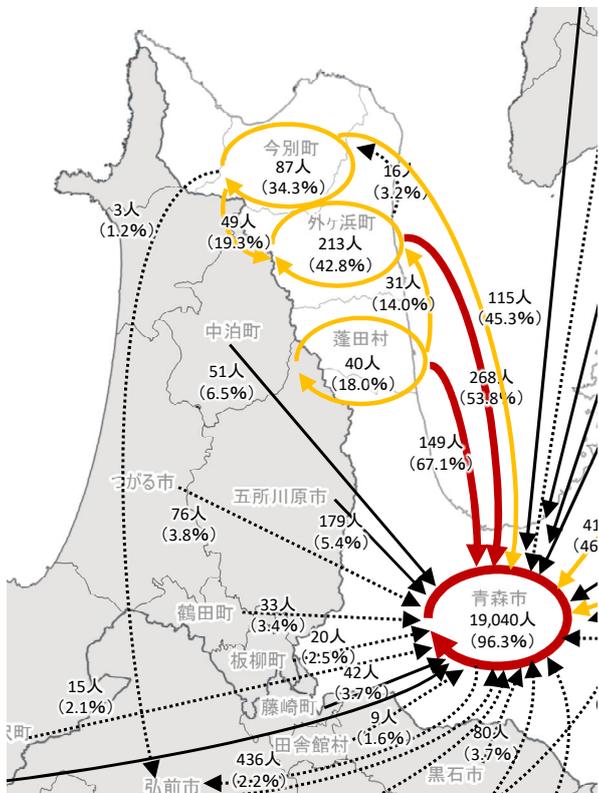


図 通院の移動実態

資料：2016 青森県受療動向調査

【通学】
 本町に常住する通学者：43人
 うち今別町の通学者：17人
 他市町村への通学者：26人

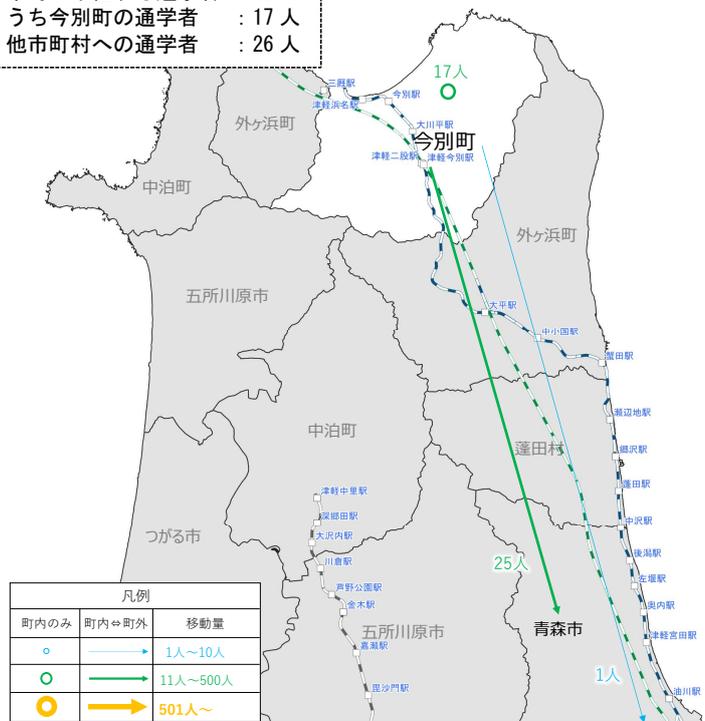


図 通学の移動実態

資料：2020 国勢調査

課題4 観光等との連携した取組の検討が必要

2016年3月の北海道新幹線(新青森駅～新函館北斗駅間)の開業に伴い開業した奥津軽いまべつ駅は、当町だけではなく、周辺自治体においても県内外の来訪者などの玄関口として大きな役割を担っています。

こうした交通拠点をもつことは当町において大きな強みであると言え、当町における観光入込客数も2016年を境として増加傾向にあるなど、経済面での活性化の効果も発現しているものと考えられます。

なお、現状でも奥津軽いまべつ駅から街なかへのアクセス手段として巡回バス(東北・北海道新幹線アクセス)を運行し、新幹線駅から町内への誘導を進めているほか、青森県・中泊町・外ヶ浜町と連携して、当該駅から津軽中里駅へのデマンド交通も運行しているなど、各方面へのアクセス性を確保しています。

今後もこれらのアクセス手段を確保・維持するとともに、情報面などのソフト的な取組なども並行して展開することによって、奥津軽いまべつ駅の更なる活用や観光振興への活用の検討を進めることが必要です。

さらには、竜飛方面(外ヶ浜町)への観光客の移動ニーズを踏まえて、観光施策としての二次交通の確保などによる、新たな利用者の獲得についても検討を進めることが必要です。

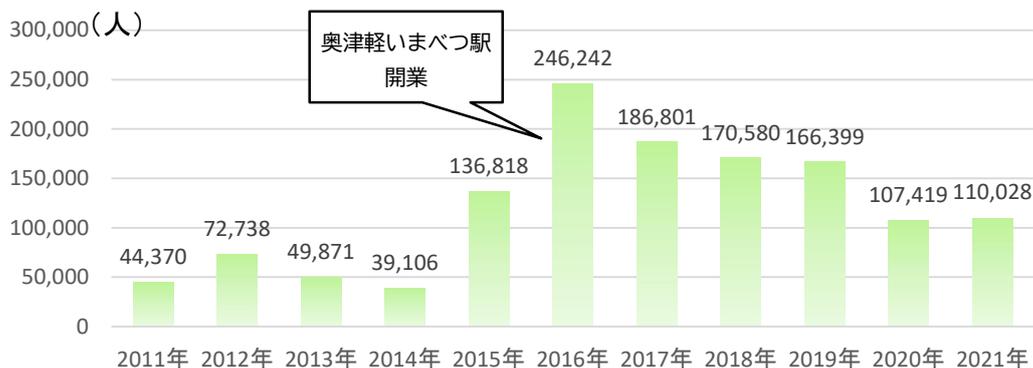


図 今別町の観光入込客数の推移

資料：青森県観光入込客統計



図 今別町周辺の観光地点の観光入込客数(2021年度)

資料：青森県観光入込客統計

課題5 公共交通を利用しやすい・わかりやすい環境の構築が必要

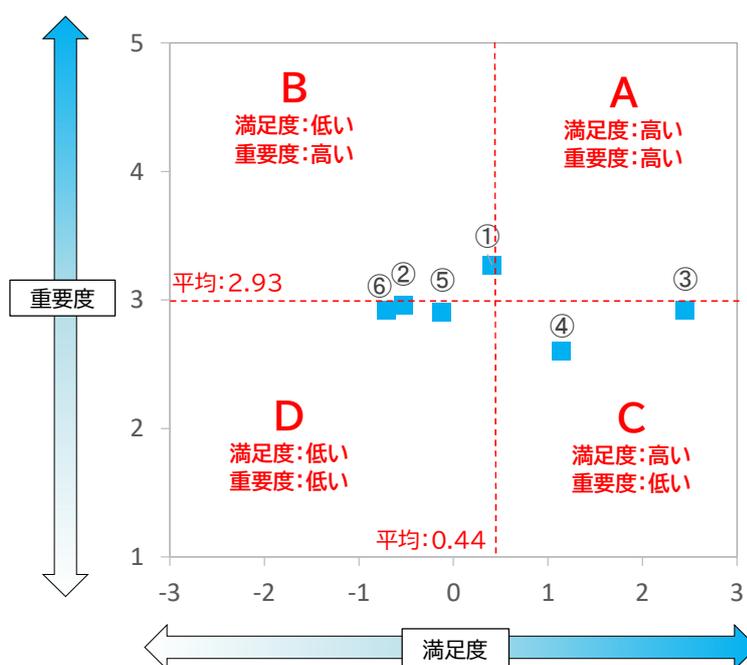
町内の公共交通の運行状況や利用環境に対する満足度・重要度について、「待合所やバス停は待ちやすい」に対して、最も満足度が低く、運行本数などのサービス面に関する項目よりも満足度が低い点が特徴的です。

また、「運行情報がわかりやすい」についても同様に満足度が低く、公共交通における利用しやすさ・わかりやすさに対して満足していないといった状況にあります。

巡回バスの待合環境については、上屋やベンチなどが設置されていない箇所も多く、特に冬期の荒天時などは屋外で待ち続けることが困難な状況にあることが起因していると考えられます。

また、巡回バスの運行情報についても、町のホームページでの公表と紙媒体での配布のほかに民間の経路検索コンテンツ(グーグルマップなど)での検索ができる環境を整備しているものの浸透していない状況にあるため、普段利用していない町民はもちろん、町外からの来訪者は利用しにくい状況にあります。

このため、バス停ごとの利用実態に応じた待合環境の改善(上屋・ベンチの設置など)や、デジタルコンテンツ(WEB 媒体など)やアナログコンテンツ(紙媒体など)での運行情報の発信強化などを進め、誰もが公共交通を利用しやすく、わかりやすい環境を構築することが必要です。



カテゴリー	項目	満足度	重要度	判定
巡回バス	① 利用しやすい時間に運行している	0.41	3.27	B
	② 利用する上で十分な運行本数である	-0.53	2.96	B
	③ 利用しやすい運賃になっている	2.45	2.92	C
	④ 利用しやすい車両である	1.14	2.60	C
	⑤ 運行情報がわかりやすい	-0.12	2.91	B
	⑥ 待合所やバス停は待ちやすい	-0.71	2.92	B
	平均	0.44	2.93	

図 町内の公共交通に対する満足度・重要度

資料：2022 町民アンケート調査

第3章 基本方針及び基本目標

3-1 当町の公共交通が目指す姿(基本方針)及び基本目標

(1)公共交通が目指す姿(基本方針)・基本目標(概要)

第1章の計画の位置づけに示したとおり、本計画は「第5次今別町総合計画（以下、総合計画という）」を上位計画とし、総合計画が示す町の将来像“みんな生き生き健康長寿奥津軽いまべつタウン”の実現に向けて、公共交通において取り組むべき方向性などを示すものであり、町の将来像の実現に向けて、公共交通の目指す姿（基本方針）として『生き生きとした暮らしを支え、町民に寄り添った公共交通』を定めます。

また、基本方針の実現に向けて、本計画の計画期間内での達成を目指す項目（本計画のゴール）として基本目標を設定します。

町の将来像 (第5次今別町 総合計画)	みんな生き生き健康長寿奥津軽いまべつタウン
基本理念	<ul style="list-style-type: none">○産業を振興し将来を担うひとを育み安心して暮らせるまち○地域資源を活かし交流促進でにぎわいを創出するまち○みんな生き生きお年寄りと子どもにやさしいまち

■本計画における公共交通が目指す姿(基本方針)

生き生きとした暮らしを支え、町民に寄り添った公共交通

○町民の日々の多様な目的において、町内や町外へのおでかけ時の移動に利用することができ、町民のさまざまな活動の基盤となり、生き生きとした暮らしを支えるとともに、町民の生活実態や地域の特性などに合わせたサービスを提供するなど、地域の足として、町民に寄り添った公共交通を目指します。

■本計画のゴール(基本目標)

目標1:町内・町外への移動を支える公共交通サービスの提供

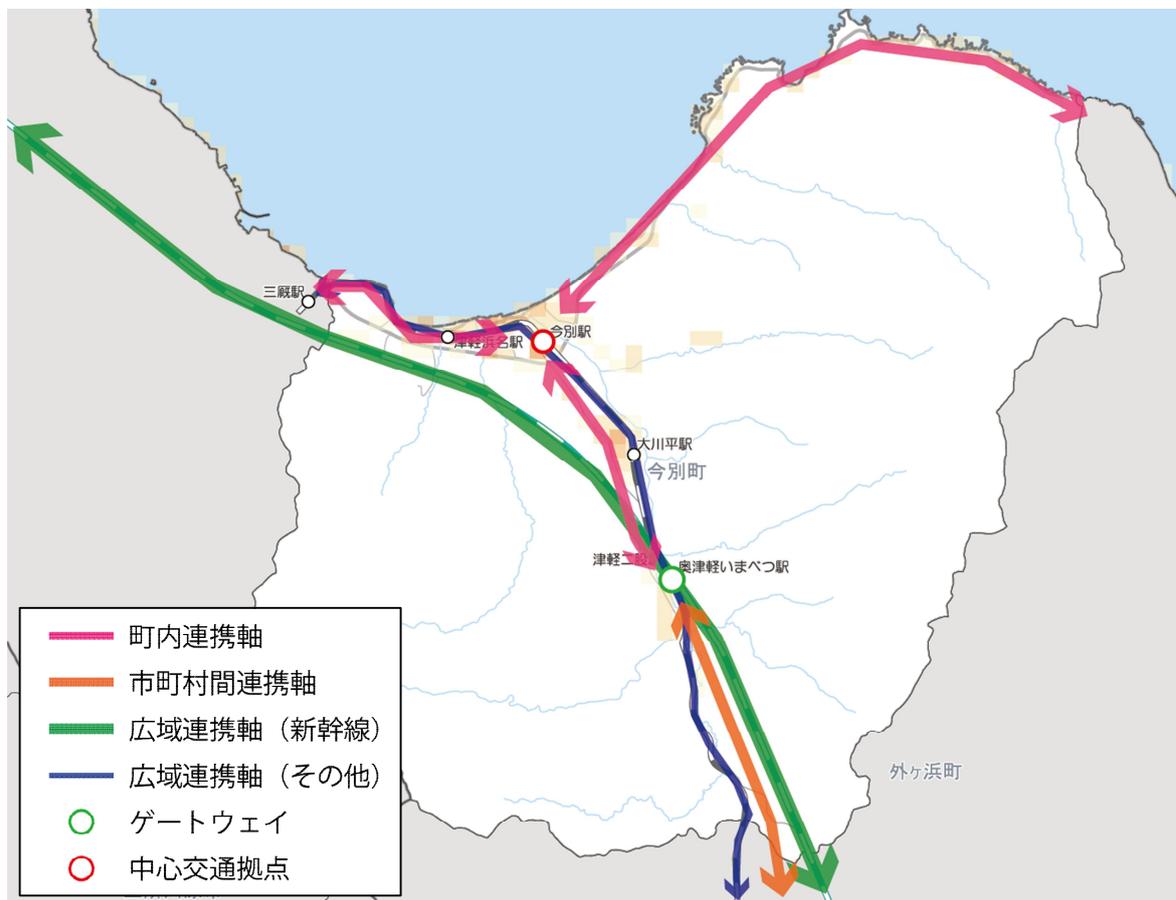
目標2:わかりやすく・利用しやすい公共交通の利用環境の構築

目標3:多様な連携を活かした公共交通の持続性の向上

(2) 公共交通ネットワークの構築イメージ

基本目標に基づく各種施策の展開により、当町において構築する公共交通ネットワークを下図の通りです。

公共交通ネットワークについては、それぞれの路線（軸）が役割分担して、多様な目的に応じた移動を支えるとともに、軸を束ねる拠点を設定することにより、公共交通としての一体性を高めます。



区分	名称	役割	位置づけ
軸	町内連携軸	○町内の各地域と町の中心部を繋ぎ、町内での多様な目的での移動を支える軸	巡回バス、一般タクシー
	市町村間連携軸	○市町村間を繋ぎ、住民や来訪者などの移動を支えるとともに、経済・文化などの連携を支える軸	愛乗タクシー (奥津軽いまべつ駅・津軽中里駅間予約制乗合タクシー)
	広域連携軸(新幹線)※	○県を跨いだ広域的な移動・連携を支える軸	北海道新幹線
	広域連携軸(その他)※	○市町村間の広域的な移動・連携を支える軸	JR 津軽線、わんタク等
拠点	ゲートウェイ※	○当町だけではなく、広域的な視点からも中枢となる拠点	奥津軽いまべつ駅
	中心交通拠点	○当町の公共交通ネットワークの中心となる拠点	今別駅周辺

※市町村間を跨ぐ広域的な公共交通に関する軸・拠点の名称や考えについては、青森県が策定した計画(青森県地域公共交通計画)に則するものである。

(3)地域公共交通確保維持改善事業の必要性

前項の公共交通ネットワークの構築イメージに示す軸のうち、市町村間連携軸に該当する愛乗タクシーについては、地域公共交通確保維持事業の地域内フィーダー系統補助を受けて運行します。

当該路線の概要を示すとともに、地域公共交通確保維持改善事業の必要性について以下のとおり示します。

表 補助系統に係る事業及び実施主体の概要

系統区分	系統名	起点・終点	接続する地域間幹線系統・バス停	事業者名	事業許可区分・運行態様	補助事業の活用区分
フィーダー系統	愛乗タクシー	奥津軽いまべつ駅～津軽中里駅	小泊線、中里駅前	株式会社中里タクシー 有限会社奥津軽観光	4条乗合・路線定期運行	フィーダー系統補助（利便増進特例を活用）

表 地域公共交通確保維持改善事業の必要性

系統区分	必要性
フィーダー系統	<p>フィーダー系統は、広域連携軸ではカバーしきれない市町村間での移動に対応するものであり、広域路線への接続や町内での移動手段として重要な役割を担っている。</p> <p>愛乗タクシーについては、当町と外ヶ浜町、中泊町を結び、ゲートウェイである奥津軽いまべつ駅において、北海道新幹線と接続し、当駅から各町への来訪者の移動手段としての役割を担っている。</p> <p>しかしながら、自治体や事業者の運営努力だけでは維持が難しく、地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する必要がある。</p>

3-2 計画の基本目標および評価指標等

ここでは前項で示した基本目標に関する詳細な内容を整理するとともに、それぞれの目標の達成状況を確認するための評価指標及び目標値を設定します。

目標値については、計画最終年度時点での達成を目標とするが、毎年度指標に関する数値の確認及びモニタリングを行い、数値が大幅に悪化する場合などにおいては、実施する事業の見直しについて検討します。

目標1:町内・町外への移動を支える公共交通サービスの提供

町民や来訪者が町内において多様な目的で外出し、さまざまな活動を行う上での基盤となる、地域の足として使うことができる公共交通サービスを提供します。

また、当町で暮らし続ける上では他の市町村との連携が重要であることから、当町と町外を結び付ける広域的な公共交通ネットワークを適切に確保・維持します。

さらには、町内の公共交通と、広域的な公共交通の連携強化を図り、公共交通ネットワークとしての一体性の強化及び全体的な利便性の向上を図ります。

■目標1の達成状況を確認するための評価指標

評価指標 人口1人当たりの公共交通の利用回数

○町内での移動や、町外⇔町内の移動を支える公共交通ネットワークを適切に確保・維持し、移動ニーズに対して適切なサービスを提供することで、人口が減少する中であっても町民1人当たりの公共交通の利用回数（年間あたり）を「年1回増やす」ことを目指します。

現況値	7.4 回/年・人	目標値 (2027)	8.4 回/年・人
算出方法: ○今別町の総人口／巡回バス・わんタク・愛乗タクシーの利用者数から利用回数を用いて評価します。 ※今別町総人口：青い森オープンデータカタログを活用 ※巡回バス・わんタク・愛乗タクシー：交通事業者からの提供データを活用			

目標2:わかりやすく・利用しやすい公共交通の利用環境の構築

町内や町外への移動に利用できる公共交通ネットワークを確保・維持するとともに、それがいつ・どこを・どのように運行しているのか、どうすれば利用できるのか、どの時間に・どの交通モードを利用すれば目的地に移動できるのかなど、運行に関する情報や案内を、わかりやすく丁寧に提供する取組を強化します。

また、さまざまな環境下でも利用しやすい待合環境の確保も併せて実施し、誰もがわかりやすく・利用しやすい公共交通の構築を図ります。

■目標2の達成状況を確認するための評価指標

評価指標 交通拠点・待合環境の整備箇所数

○待合環境を整備し、分かりやすい案内情報を発信することで公共交通の利用者の増加を図ります。

現況値	3箇所	目標値 (2027)	5箇所
算出方法: ○ゲートウェイや中心交通拠点を対象に利用環境が整備されているかを確認して評価します。 【評価対象】 ・奥津軽いまべつ駅 ・今別駅 ・三厩駅 ・商業施設 ・今別診療所			

目標3:多様な連携を活かした公共交通の持続性の向上

公共交通の政策としての取組だけではなく、まちづくりや観光、福祉、教育など、多様な分野との連携を行うことで、町内全体で町民の移動を支える連携体制の強化を図ります。

また、行政だけではなく、地域や住民とも連携し、町のみならず、みんなの足を守る意識を醸成します。

これにより多様な連携を生み出し、活用することで地域の足としての公共交通の持続性の向上を図ります。

■目標3の達成状況を確認するための評価指標

評価指標 公共交通の運行に掛かる財政負担額

- 多様な連携により、さまざまな目的に公共交通を活用し、使われる機会を増やすことで、公共交通に対する財政負担額が増加する中であっても、現状と同じ程度の水準を確保することを目標とします。

現況値	45,728 千円/年	目標値 (2027)	45,728 千円/年
算出方法: ○公共交通の財政負担額の合計を算出します。これを用いて、公共交通の効率性及び持続性が高まっているかを評価します。 ※財政負担額：町で把握している財政負担額のデータを活用			

評価指標 巡回バスの収支率

- 基本目標1・2に基づき利用者が使いやすい公共交通ネットワークを形成し、これに待合環境整備や情報発信を組み合わせた利用促進を展開することで、利便性向上を図ります。これにより、燃料費高騰などによる運行経費の増加や人口減少をはじめとした収入の低下に伴い、巡回バスの収支率が平成29年度の1.7%から令和3年度の1.3%と約0.4ポイント減少しているなかでも、施策を講じて収支率を維持します。

現況値	1.3%/年	目標値 (2027)	1.3%/年
算出方法: ○路線バスの運送収入の合計/運行経費の合計から収支率を算出する。その結果を用いて、路線バスが継続して確保・維持できているかを評価します。 ※路線バス運送収入、運行経費：交通事業者からの提供データを活用			

第4章 目標の達成に向けた具体施策

4-1 施策体系

本計画の目標達成のために行う施策体系を次のとおり定めます。

【基本方針】	【計画の目標】	【施策体系】
<p>生き生きとした暮らしを支え、町民に寄り添った公共交通</p>	<p>目標1： 町内・町外への移動を支える公共交通サービスの提供</p>	<p>施策1：町内の公共交通ネットワークの見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業1-1 巡回バスの見直し 事業1-2 広域路線に係るあり方検討 事業1-3 タクシーなどの利活用
	<p>目標2： わかりやすく・利用しやすい公共交通の利用環境の構築</p>	<p>施策2：利用環境の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業2-1 交通拠点（ゲートウェイ・中心交通拠点）における接続性の向上 事業2-2 待合環境の整備 事業2-3 案内方法の見直し 事業2-4 ICT技術やデータを活用したサービスの検討
	<p>目標3： 多様な連携を活かした公共交通の持続性の向上</p>	<p>施策3：他分野と連携した利用促進の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業3-1 観光施策と連動したサービスの企画・展開 事業3-2 教育・福祉分野と連携したサービスの企画・展開 事業3-3 住民協働による移動手段について考える場の構築

表 施策の実施スケジュール

計画の目標	事業名	スケジュール				
		2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
目標1: 町内・町外への移動を支える公共交通サービスの提供	施策1 町内の公共交通ネットワークの見直し					
	事業1-1 巡回バスの見直し	検討・調整	整い次第再編		継続・見直し	
	事業1-2 広域路線に係るあり方検討		検討・調整			整い次第導入
	事業1-3 タクシーなどの利活用	検討・調整	整い次第再編		継続・見直し	
目標2: わかりやすく・利用しやすい公共交通の利用環境の構築	施策2 利用環境の改善					
	事業2-1 交通拠点(ゲートウェイ・中心交通拠点)における接続性の向上	検討・調整	整い次第再編		継続・見直し	
	事業2-2 待合環境の整備	検討・調整	整い次第整備		継続・見直し	
	事業2-3 案内方法の見直し	検討・調整	作成・配布・更新			
	事業2-4 ICT技術やデータを活用したサービスの検討		データの作成・更新及び展開			
目標3: 持続可能な公共交通の基盤整備	施策3 他分野と連携した利用促進の展開					
	事業3-1 観光施策と連動したサービスの企画・展開	検討・調整	実施・効果検証		継続・見直し	
	事業3-2 教育・福祉分野と連動したサービスの企画・展開	検討・調整	実施・効果検証		継続・見直し	
	事業3-3 住民協働による移動手段について考える場の構築		出前講座の開催			

4-2 施策・事業の内容

施策1： 町内の公共交通ネットワークの見直し

事業1-1 巡回バスの見直し

【実施主体：今別町、運行事業者】

- 今別駅周辺を中心として買い物・通院・通勤・通学利用を想定したダイヤ及び運行間隔の見直しを検討します。
- バス停以外に乗り降りできるフリー乗降区間に関して、関係者と協議の上検討します。
- 平館回転所バス停において外ヶ浜町民バスとの接続を円滑にするため、ダイヤを見直します。

巡回バス	外ヶ浜町民バス	待ち時間
平館回転所 バス停着	元宇田 バス停発	
7:07	7:30	0:23
10:08	10:20	0:12
11:22	12:28	1:06
15:10	16:20	1:10
17:26	18:10	0:44

待ち時間が長い便は
接続を考慮してダイ
ヤを見直し

図 巡回バスと外ヶ浜町民バスとの接続

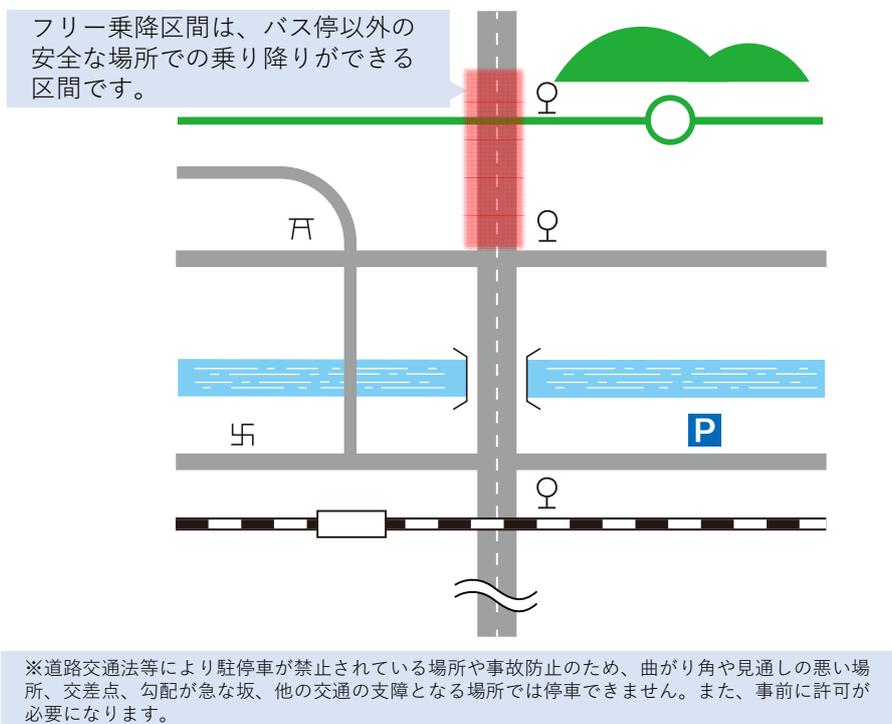


図 フリー乗降区間のイメージ

事業 1-2 広域路線に係るあり方検討

【実施主体：青森県、今別町、運行事業者】

- 青森県地域公共交通計画と連携し、広域的な公共交通ネットワークの確保・維持に努めます。
- 日常生活の移動手段として通勤・通学・通院に利用されているJR津軽線に関して、近隣自治体と連携しながら確保・維持を図ります。
- ゲートウェイ及び中心交通拠点におけるバスと鉄道の接続性向上に向け、巡回バスと接続できるようダイヤを見直します。

事業 1-3 タクシーなどの利活用

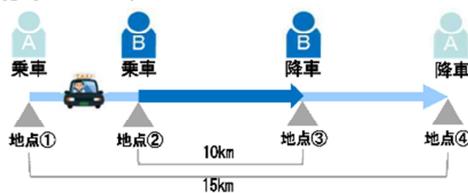
【実施主体：今別町、運行事業者】

- 愛乗タクシーについて、北海道新幹線からの二次交通として維持します。
- 巡回バス・JR津軽線・わんタク・北海道新幹線ではカバーできない少数で分散した移動需要を満たす移動手段として、タクシーの活用及び相乗りタクシー事業を検討します。

表 想定する乗用タクシーの利活用イメージ

タクシーの利活用	内容
買物代行サービス等	○タクシー会社が利用者によって変わって代行するサービス（例：買い物代行サービス、デリバリーサービスなど）。
定額制度	○定期券のように、対象者・エリア・時間帯を限定した制度。割安に利用できることにより、利便性の向上や需要の喚起に繋がる。

(利用イメージ)



【地点①～④のタクシー運賃が 5,000 円の場合】

A の運賃 : 3,000 円 (5,000 円 × 15km/25km)

B の運賃 : 2,000 円 (5,000 円 × 10km/25km)

図 相乗りタクシーのイメージ

施策2:利用環境の改善

事業2-1 交通拠点(ゲートウェイ・中心交通拠点)における接続性の向上

【実施主体：今別町、運行事業者】

- 奥津軽いまべつ駅及び今別駅において、特に鉄道からの乗継が多い時間帯（通勤・通学の多い朝の時間帯など）、観光などの利用が見込まれる曜日・時間帯について、町内の公共交通の接続時間が適切になるように調整し、接続性の向上を図ります。
- 各交通機関でダイヤ改正の時間差による接続性の一時的な損失を防ぐため、関係者間（交通事業者、行政）でのダイヤ改正情報を共有します

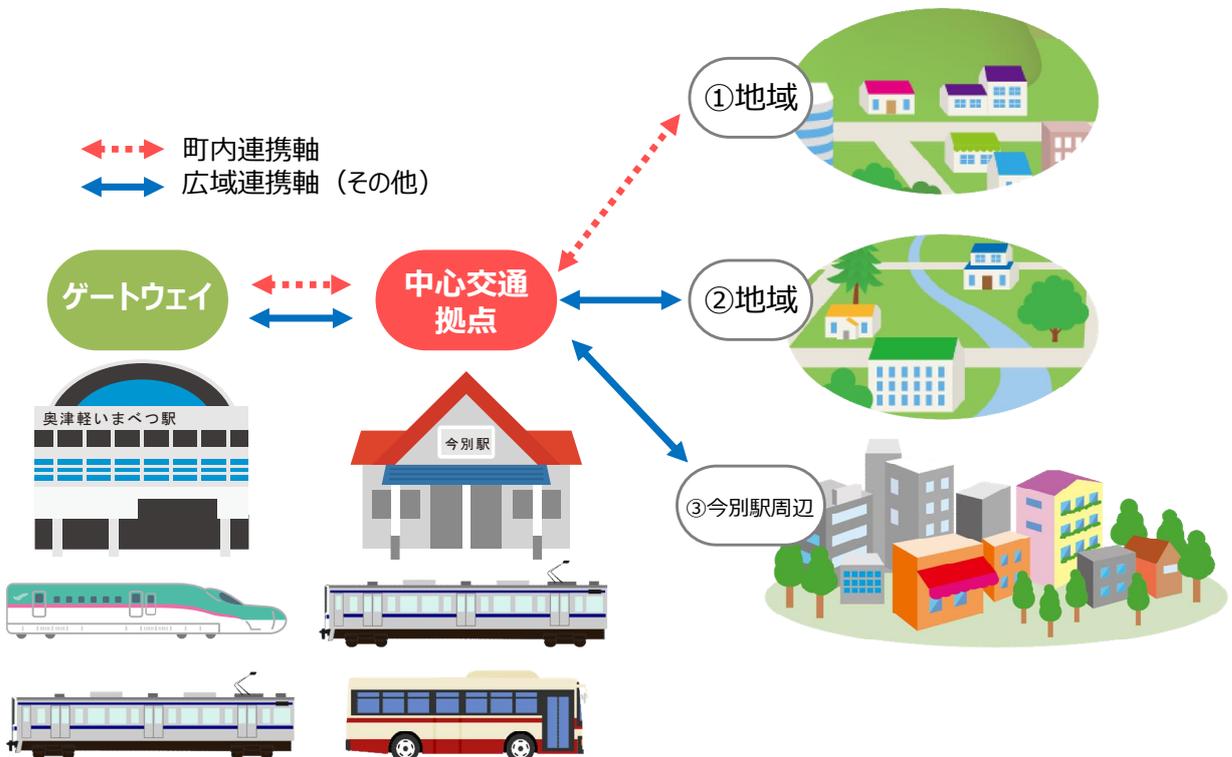


図 交通拠点における接続イメージ

事業 2-2 待合環境の整備

【実施主体：今別町、運行事業者、商業施設】

- 奥津軽いまべつ駅をゲートウェイと設定し、今別駅を中心交通拠点と設定し、鉄道・路線バス・コミュニティバスと乗り継げる待合環境を整備します。
- 郊外部等においては、バス停での待合環境や広域路線への乗継環境が十分ではないことから、地域内の支所や公民館、スーパーやコンビニ等を乗継拠点として位置付け待合環境の充実を図ります。
- 中心拠点・乗継拠点において、交通結節機能（乗場案内、乗継案内、行先表示等）を備えた総合案内板、乗場案内サイン、バス停盤面等の整備・改善を行います。

表 待合環境の整備イメージ

拠点	整備方針
奥津軽いまべつ駅	<ul style="list-style-type: none"> ○公共交通の乗り入れ情報を掲示する。 ○公共交通に関する情報提供と案内表示を継続して整備する。 ○乗り継ぎ先までの経路を分かりやすくする。
今別駅	<ul style="list-style-type: none"> ○乗り継ぎ先までの経路を分かりやすくする。 ○公共交通機関同士の乗り継ぎ時間を可能な限り短くする。 ○公共交通の乗り入れ情報を掲示する。
スーパー・コンビニエンスストアなど	<ul style="list-style-type: none"> ○敷地内への巡回バス乗り入れを活用し待合環境の改善を図る。 ○バス乗り場案内を設置するとともに乗り継ぎに配慮しバス乗り場を近接させる。 ○公共交通に関する情報提供と案内表示を整備する。
今別診療所	<ul style="list-style-type: none"> ○敷地内への巡回バス乗り入れを継続し、利用方法などの案内板を整備し待合環境の改善を図る。 ○公共交通に関する情報提供と案内表示を継続して整備する。

事業 2-3 案内方法の見直し

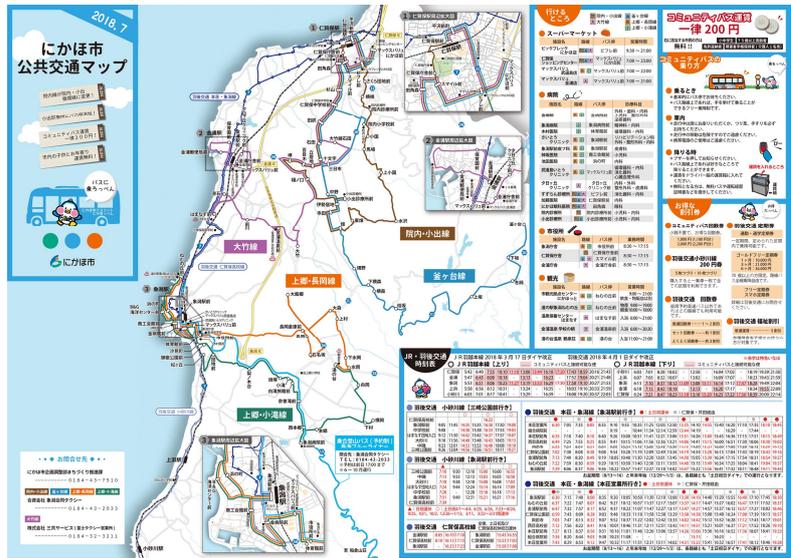
【実施主体：今別町】

○町内の公共交通等をより多くの町民・来訪者等に使うため、巡回バス・北海道新幹線・JR津軽線・愛乗タクシー・わんタクの利用方法やゲートウェイ・中心交通拠点などの情報を分かりやすく示した「公共交通マップ」等を作成・配布します。

取組事例(秋田県にかほ市)

- 路線バス、コミュニティバス、鉄道、観光バスなど市内のネットワーク全体を掲載しています。
- バスの乗り方の他、目的別の行先や公共交通機関同士の乗継情報なども掲載しお出かけ時に検索しやすいよう工夫している。

(参考)にかほ市 HP :
<https://www.city.nikaho.akita.jp/>



事業 2-4 ICT 技術やデータを活用したサービスの検討

【実施主体：青森県、今別町、運行事業者、民間事業者】

○巡回バスのダイヤや運賃を国の指定様式（GTFS-JP）への変換、及び当該データの公表（オープンデータ）や適切に更新することで、最新の情報が乗合情報案内事業者等に提供される情報発信を維持します。

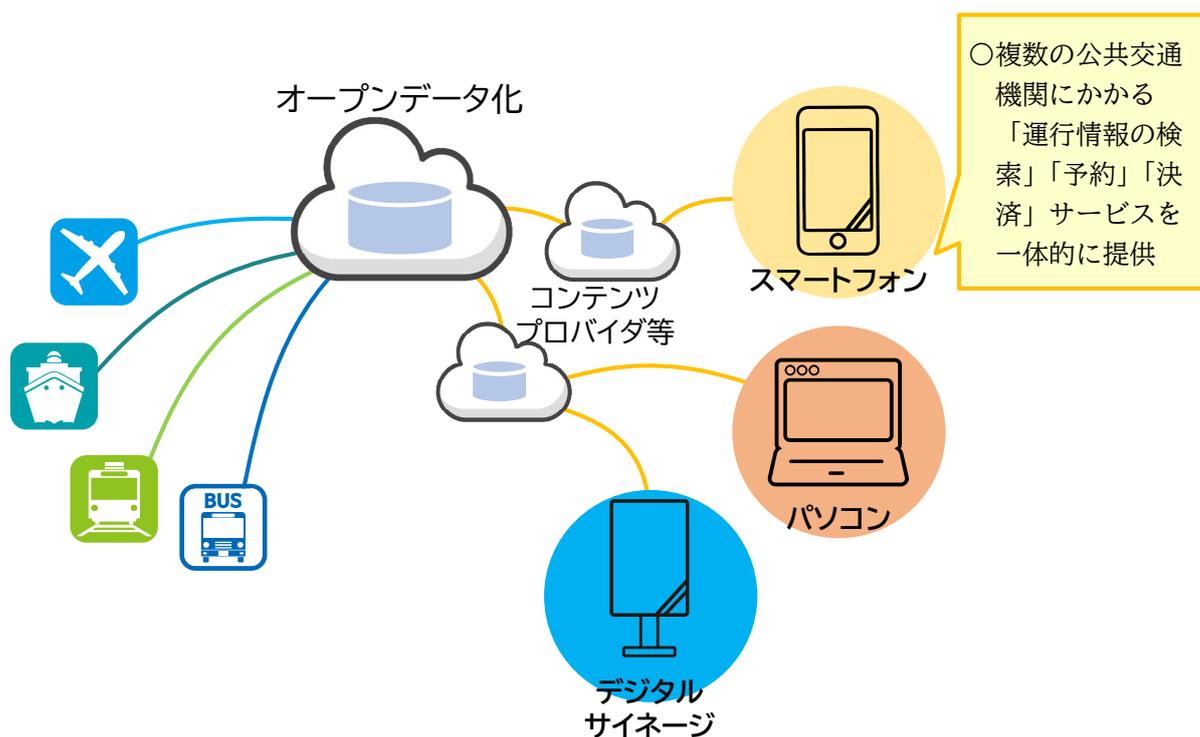


図 オープンデータの活用イメージ

施策3：他分野と連携した利用促進の展開

【実施主体：今別町、運行事業者】

事業3-1 観光施策と連動したサービスの企画・展開

○これまで取り組んできている観光客向けサービスを更に継続・拡充させ、観光二次交通の充実を図ります。

表 観光分野との連携イメージ

項目	内容
観光分野との連携	<p>○観光施策としての二次交通を検討します。(例：龍飛崎など)</p> <p>○観光客向けの情報媒体に公共交通に関する情報(アクセス手段、時刻など)を盛り込むよう働きかけます。</p> <p>○イベント時に合わせて、公共交通の利用に特典を付与したキャンペーンを開催します。</p>

■取組事例(福島県南会津町)

○町内の観光周遊を促すため、観光協会が主体となった観光タクシープランを企画・販売している。観光地へ直接行けるシャトルバスプランのほか、貸し出す時間を決め、時間内であれば自由に利用できるフリープランもある。

(参考) 南会津町 HP : <https://www.town.minamiaizu.lg.jp/>

事業 3-2 教育・福祉分野と連携したサービスの企画・展開

【実施主体：今別町、運行事業者、学校関係団体・民間事業者】

- 教育分野と連携し巡回バスに触れ合う機会を創出し、公共交通に対する意識向上を図ります。
- 福祉分野と連携し、健康づくりに着目した公共交通の取組を展開します。

表 教育・福祉分野との連携イメージ

項目	内容
教育分野との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○小学生等を対象に巡回バスの乗り方教室を開催し、乗り方や公共マナーの大切さを伝え、公共交通に対する意識醸成を促します。 ○課外活動の際に公共交通を利用し、公共交通に慣れ親しんでもらう機会を創出します。
福祉分野との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○運転免許証返納者及び高齢者に対し、巡回バス割引運賃や運転経歴証明書交付手数料補助などの支援を継続します。 ○商業施設と連携し、公共交通の利用に付加価値をつけた割引サービスや企画切符などを検討します。(公共交通利用者へのポイント付与など)

■取組事例（福島県会津若松市 青森県八戸市など）

- 将来を担う子どもたちを対象にバスに慣れ親しんでもらうため、乗り方教室を開催しています。バスの乗り方だけではなく、交通と環境の関係を考えてもらい環境に優しい公共交通であるバス利用の大切さを考えてもらう機会となっています。

(参考) 会津若松市：

<https://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/>

(参考) 八戸市 HP：

<https://www.city.hachinohe.aomori.jp/>

- 会津若松市は地元商店と連携し公共交通の会員証を提示することでポイントが付与されるサービスを実施しています。



事業 3-3 住民協働による移動手段について考える場の構築

【実施主体：今別町】

- 移動に関する困りごとを抱える地域住民等を対象に、公共交通の利用方法等を説明する意見交換会を開催します。

第5章 計画の推進方策

5-1 計画の管理体制

本計画の推進にあたっては、今別町が中心となって町民・交通事業者・関係主体等と連携・共働し取組むとともに、それぞれの主体に基本的な役割を分担します。

今後も引き続き下記の関係主体等から構成された「今別町地域公共交通会議」の会議による管理のもと、本計画全体の推進および事業の進捗状況の確認、目標の達成状況の確認等を行い、本計画の着実な推進します。

表 関係する主体と基本的な役割

系統区分	必要性
今別町	<ul style="list-style-type: none"> ○青森県地域公共交通計画との整合性を図りつつ、計画全体を進行する役割を担い、主体的に計画の管理および推進を図るとともに、公共交通の確保・維持に向けた検討を行う。 ○他の分野とも連携を図るための“橋渡し”となる役割を担い、町全体での取組の推進を図る。
町民	<ul style="list-style-type: none"> ○公共交通の利用者の目線から、公共交通の改善に向けて積極的な意見・アイデアを提案する役割を担う。 ○行政とともに公共交通を支えるなど、協働の取組による公共交通の確保・維持に向けた取組の展開を図る。
交通事業者	<ul style="list-style-type: none"> ○公共交通の運営・運行主体として、本計画に基づいた事業の展開を行うとともに、町とともに持続可能な公共交通に向けた検討を進める。
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ○行政や交通事業者等と連携した取組の検討を行う。
国・県	<ul style="list-style-type: none"> ○全体的な統括の視点や、他地域での事例等を踏まえながら計画の推進に対して助言する。
道路管理者・交通管理者	<ul style="list-style-type: none"> ○道路行政の視点から公共交通運営の正当性・妥当性について判断する。
有識者	<ul style="list-style-type: none"> ○本計画に示す事業の実施方針等について、多角的な視点から助言等を行う。

5-2 計画の管理スケジュール

各基本目標の達成状況について継続的にモニタリングを行い、事業ごとにPDCAサイクル（計画（PLAN）・実行（DO）・評価（CHECK）・改善（ACTION）の循環検討手法）の考えに基づき、検証を実施します。

具体的に示す事業内容を踏まえて指標及び目標値を設定し、本計画による定量的な効果について把握します。

年度ごとの実施において、本計画や地域公共交通確保維持改善事業（国庫補助事業）に関する協議などを行うため、適宜協議会を開催し、評価結果を検証するとともに、有識者等の意見を踏まえ実施中の事業内容等を改善するほか、次年度に向けた事業計画の検討を行います。

本計画の最終年度には本計画全体の評価等を行いつつ、本計画の見直し及び時期計画の策定に向けた検討を進めます。

なお、町の上位計画で目指す方向性の大きな変化や、本計画の根拠法令である活性化再生法の見直し、本町の地域公共交通を取り巻く情勢などが大きく変わる場合においては、計画期間内であっても、計画に示す内容などの見直しを行います。

表 計画の推進方法

	令和5年 (1年目)	令和6年 (2年目)	令和7年 (3年目)	令和8年 (4年目)	令和9年 (5年目)
施策・事業の実施	準備 → 実施 D				
施策・事業のモニタリング・評価	C → A・P				
計画の評価指標のモニタリング・評価	評価指標 C	評価指標 C	評価指標 C	評価指標 C	評価指標・計画の評価 C
計画の見直し検討・改訂		必要に応じて計画変更 A・P			次期計画の検討 A・P

表 年度ごとの実施内容

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
地域公共交通会議等の開催		会議①							会議②			
庁内調整							● 予算要求					
フィーダー系統補助金関係			● 計画認定申請			● 認定		● 補助金交付申請(前年度分)	● 自己評価			
計画に基づき実施する内容	準備		施策・事業の実施 D									
					施策・事業のモニタリング C							次年度への見直し検討 A
補助事業等に関連する行事		地域公共交通確保維持改善事業計画の作成 P										

策定：令和 5 年 3 月

発行：今別町地域公共交通会議

編集：今別町 総務企画課

（今別町地域公共交通会議 事務局）

〒030-1502 青森県東津軽郡今別町大字今別字今別 167

TEL：0174-35-2001（代表）